

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077700096		
法人名	社会福祉法人 ふたば会		
事業所名	グループホームふたば		
所在地	福岡県三井郡大刀洗町大字高樋1245番地1 (電話) 0942-77-0877		
自己評価作成日	平成 29 年 7 月 31 日	評価結果確定日	平成 29 年 10 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の周辺には田園風景が広がり、苑庭には四季折々の花々や果実、裏の畑の菜園では野菜など、季節の移り変わりを五感で感じる生活環境にあります。隣の広場では、早朝からゲートボールに興じる近隣住民の方々の声や馴染みの顔が見え、地域の夏祭り、ミニデイへのお誘いなど、様々な地域資源・地域との繋がりが身近にあります。また、GH運営推進会議のメンバーを中心に高樋区住民との協力体制を取り、認知症SOS模擬訓練に取組み地域との連携強化を図っています。利用者本人と家族との繋がりを大切にし、家族とともに利用者の思いに添った外出・外食等の生活支援にも力を入れ、生活の場を内から外へと広げ、地域社会の中でのその人らしい暮らしの実現に向けて取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 8 月 25 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

緑豊かな田園風景に囲まれた鉄筋造りの建物の2階に位置する。1階デイサービスとはドアが開放され自由に行き来できる。法人内はもちろん地域との交流が盛んで、ミニデイやキッズふれあい等様々な行事が催され避難訓練も合同で行っている。本人の希望を取り入れながら外出の機会をつくり、地域や馴染みの人との関わりを継続できるようにしている。職員・利用者共に笑顔あふれる事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内やホーム内に理念・方針・事業目標を掲示し、常に意識出来るようにしている。職員研修時には、理念を唱和して振り返りを行っている。また日常生活の中でも、その場の行動が理念に沿ったものであるかをお互いに注意しあうようにしている。	「ひとりのえがおがみんなのえがお」とわかりやすい事業所独自の理念がある。大刀洗町の避難場所として指定されており、地域において貢献できるように地域の人々との交流や活動を行っている。事業所の理念は玄関に掲示され、実践に向けて声かけや日頃の介護に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所での年間行事に家族や地域の方々などに声掛けたり、地域主催の夏祭りやミニデイに参加するなど積極的に交流を深めている。1階デイサービスの方々とも折り紙教室・アクティビティーなどを通して交流を深めている。	地域の清掃活動や敬老会に利用者と一緒に参加している。夏祭りは地域と協賛して行った。「キッズふれあい」では子供達・親・利用者と一緒に菓子作りを行い3世代の交流を深めている。中学生や大学生の職場体験の受け入れを行っている。近所の人達が気軽に立ち寄られ、野菜や梅干しのおすそ分けをもらっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校の実習生を受け入れ、介護の喜びや苦労したことなど体験談などを伝え認知症介護の実践を活かしている。また、認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトとして、地域の小学校、公民館などへ出向き講師として地域で活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月1回開催し、パワーポイントを用いて毎月の活動報告や事故報告等を行い、地域の方々に意見やアドバイスを頂き意見交換をおこなっている。頂いた意見は積極的に取り入れながら、サービスの向上に繋げている。運営推進委員会を中心として高樋区の地域住民との協力体制を取り、認知症SOS模擬訓練を実施している。	定期的に運営推進会議が開催されている。地域の人の参加もある。会議では利用者やサービス内容の報告を行い、畑のすいかの栽培について助言をもらったり、出入り口の木が危険なので切ったほうがよいのではとの意見が出て危険がないように木を選定してもらう等会議で出た意見を活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村レベルの地域ケア会議に参加している。また、健康福祉課主催のオレンジメイト会議に出席し会議を通して事業所の実情やサービスの取組み等報告している。介護保険更新時には窓口に出向いたり、利用者の困りごと等が発生した場合には相談しアドバイスを受けている。	日頃から報告・相談・連絡は行政に行き来したり電話で行っている。公民館で地域のミニデイを開催している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「福岡県身体拘束ゼロ宣言」を掲示、施設内研修や外部の研修に参加、身体拘束廃止の意識啓発に取り組んでいる。夜間の防犯上の施錠以外、日中は施錠をせず出入口にセンサーを使用している。帰宅願望のある利用者には、行動を見守り、気の向くまま、満足されるまで職員が付き添うなどの対応をしている。	玄関は施錠していないが、居室を間違える利用者があり、その部屋の利用者が自由に開け閉めできる鍵を居室入口に設置している。利用者の外出傾向を把握し見守りや付添いを行っている。マニュアルは作成しており、全職員が身体拘束に関する内部研修に参加している。テキスト・研修記録は整備されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	メディアで虐待の報道等を施設内研修で取り上げ、その都度話し合う機会を作り虐待防止の徹底を図っている。利用者にあざ等を見つけた時など、ヒヤリハットを活用し些細なことでも見逃さないよう虐待防止に取り組んでいる。またお互い見てみぬ振りをしないよう、理念に沿って注意するように心掛けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修の中で、テキストやパンフレット等を用いて勉強している。玄関窓口に、誰もが自由に持ち帰れるようパンフレットを用意しており、必要時にはご家族に手渡し説明している。	権利擁護制度について、利用者や家族に必要時説明をしている。テキストやパンフレットは準備され、職員は学ぶ機会をつくるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項書類を用いてきちんと説明、不安や疑問点を確認し、納得されたのち手続きを行うようにしている。重要事項に変更が生じた場合には、利用者・家族にその都度充分な説明を行い、理解・承諾を得た上で重要事項等に記名・捺印を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会の際には、職員から話しをするよう心掛け、家族や親族が気兼ねなく意見・要望等話せるような雰囲気づくりに努めている。運営推進会議への出席案内をご家族に送付し自由に参加できるようにしている。	職員は、日常生活の中で利用者の意見や要望を聞くように心掛けている。本人が食べたいものを外食したり買い物に行きたい希望があれば一緒に買い物に行く等要望を取り入れるようにしている。面会時は家族に利用者の日頃の状況を伝え要望を確認している。家族よりリハビリ希望がでたので、訪問リハビリを開始する等家族の意見を反映させるようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや研修を通して、運営に関するいろいろな情報等職員に伝え、職員の創意工夫が活かせるよう役割と責任を持たせている。また、率直な意見や提案が話せる場を設け、個人面談を行うなど風通しの良い環境づくりを行っている。	管理者が全職員の意見を取り入れ、自己評価に取り組んだ。月1回のミーティングや折にふれて職員の意見を聴くようにしている。職員が意見を言いやすい環境づくりを管理者は工夫している。勤務時間の見直し等職員からの意見はすぐに対応し、可能ならば取り入れるようにしている。管理者は職員の長所を活かせるように配慮している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人において就業規則、給与規程、育児・介護休業規程等整備している。自己啓発や外部研修等へ積極的に参加を促し、仕事の意欲に繋がるよう支援をしている。子育ての職員に対しては、働く時間帯など個々のニーズに合わせた働きやすい職場環境を整備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用については年齢・性別に関係なく適正を考慮して採用、無資格者であっても持てる能力が発揮できる部署に配置し活躍できるように配慮している。仕事は楽しく生き生きとすることが事業所のモットーであり、各職員に得意分野の能力を発揮してもらい、弱みについては職員同士でフォローしながら、自己実現出来るように配慮している。	本人の意欲を大事にして特定の理由で採用対象から排除はしていない。スキルアップのため資格所得希望者には施設の職員が勉強会を開催したり、勤務表作成時、休みに配慮するようになっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内外の研修において、職業倫理、個人の尊厳等について学習し、人権教育、啓発活動を行っている。毎月のスタッフ会議等で日々のケアが人権を尊重したものであるかについても話し合い、職員間で共通認識を確認している。	全職員は内部研修で人権に関する研修に参加している。外部研修に参加した職員が、伝達講習をしている。テキスト・研修記録は整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や力量、向上心を見極め、外部研修等へ派遣し、職員がスキルアップできるよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	筑後地区老施協、県老施協、朝倉介護保険事業協議会に加入、研究大会や職員研修、交流会等に参加し他施設職員との交流を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、事前に本人にも見学して頂くなど顔や場所を覚えてもらうことから始めている。入居後は、本人との信頼関係を築く為、困っている事・不安なこと等本人の言葉を傾聴しながら話しやすい雰囲気づくり、安心できる環境作りに取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談の段階から、家族等の困っていること、不安なこと、要望等を聴き取り、思いを受け止めている。入居後は生活状況など電話で報告、積極的に家族と話をする機会をつくり、要望など話しやすい関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な時には、特養のショートステイの利用を勧めたり、可能な限り柔軟な対応を行っている。地域包括支援センターとの連携を図り、他事業所のサービスを紹介するなどの支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者各々ができる範囲内で、掃除や洗濯、食事の準備などを一緒に行いながら、共に暮らしている。仕事に追われる時も手伝って頂く事で助けられることも多く、常に感謝の言葉を伝えている。また、疲れている様子を察知してか、労いの言葉をかけてくださったり、肩を揉んでくださる方もあり、お互いが助けあいながら暮らしを共にする関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌を活用し日常生活状況を報告、受診時にはその都度電話で報告、面会時にも近況を伝え家族との情報共有を図っている。今年度は、お小遣いを家族から協力をいただき、本人の要望を聴きながら外食や趣味活動などの個別対応を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	行事や花見には、自由に参加してもらえよう家族にも誘いの声をかけている。家族と一緒に外出できる場を提供したり、冠婚葬祭にも出席できるよう支援している。地域の公民館で行われているミニデイや夏祭りにも参加している。以前デイサービスを利用していた利用者には、時々遊びに行っていたり、電話や手紙などでも交流が図れるよう支援している。	利用開始時利用者や家族から馴染みの関係について聴取している。手紙や電話のやり取りを介助したり、馴染みのお宮参りに一緒に行く、ドライブの時に知っている道を通る等馴染みの関係が継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や人間関係を十分に把握し、席順や入浴の順番などにも気を配っている。散歩の際には利用者が車椅子を押してくださるなど支え合える関係ができています。利用者同士のトラブル時には、職員が介在しお互いが嫌な気分にならないようには話をしたり、時には場所を移動していただくなど、一人ひとりが孤立せずに楽しく生活できるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方にも行事等にお誘いするなど、気軽に立ち寄れる関係を大事にしている。こまめに声掛けし、困り事や相談等気兼ねなく話せる関係を大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に利用者の要望を聞きながら個別に対応するなどその人らしい暮らしの実現に努めている。自分の思いを上手に伝えることが出来ない利用者に対しては、表情や体動等で本人の思いを汲み取ったり、家族にこれまでの生活習慣や好きな事などを聴き取りながら、職員側での思い込みでなく、その人らしい暮らしの実現に近づけるよう支援している。	飾っている花をよく見ている利用者の事を家族に聞くと、お花の師範免許を持っている方だったり、日常的に反応が少ない利用者に対して、喜ばれる声かけはないかという試みて「かわいいね」という声かけがとても喜ばれることを発見したなど、一人ひとりの思いの把握に努め、本人本位の生活が送れるように支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントをする際に本人や家族等から聴き取りをしている。入居後も面会時に近況報告をするなかで、新たに以前の暮らしぶりや性格など家族から話を聞くこともあり、家族と情報共有しながらその人らしい暮らしの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活のあらゆる場面の中で本人の「できる事」「できない事」を把握し、可能な限り家事を手伝って頂いている。一日のスケジュールは本人のペースを大切に自由で生活していただいている。一人になりたい時には居室で過ごしたり、廊下にソファを設置し一人で過ごせる空間を確保している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で本人・家族等の意向を伺ったり、日々の生活状況や現在の心身の状態などを報告しながらケアプランに反映させている。職員間でもスタッフカンファレンス内で現状を話し合い情報を共有している。身体状況などに変化がある時には随時見直ししながら、その都度家族にも報告し、プランに同意の署名・捺印をいただいている。	ケアマネひとりの意見ではなく、スタッフ会議で各職員から気付いたことや意見を聞き、職員全体で3ヶ月に1度の見直しを行っている。また、家族の意見を聞き、利用者一人ひとりにあった計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を細かく介護記録に記入するとともに、連絡ノートなどを通して情報共有を図っている。日々のケアの中での気づきなどは、スタッフ会議内で話し合いを行い、こまめな対応が出来るようにしている。今年度より記録の書き方の見直しもを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズを把握し、訪問歯科や訪問リハビリを利用している。希望を聞きながら訪問理美容や行きつけの美容室への送迎など、個々での外出支援も実施している。入院時の面会や洗濯物の取り換え等にも出向いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全に暮らせるように、地域住民のふれあいネットワークづくりや、併設特養との災害時に向けた合同避難訓練を実施している。地区の夏祭りや敬老会に参加、お宮の掃除、園庭の散歩、畑の野菜と一緒に収穫して調理したり、キッズふれあいでの子ども達とお菓子作りやクリスマス会など、地域資源を活用し暮らしの楽しさを支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診・入院については、本人や家族の希望する病院を受診している。受診の際には職員が同行、日常生活状況の情報を報告するなど主治医との信頼関係を築いている。また、受診結果について家族報告し、常に情報を共有するようにしている。	本施設のすぐ近くに病院があり、かかりつけ医にしている。そのことは家族にも承諾を得ている。症状によって往診を依頼し、対応してもらっている。しかし、利用者や家族の希望があれば他の医療機関も受診している。受診には職員が付き添うが、検査結果などを聞くときは、家族にも同席してもらっている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が毎週水曜日に訪問し利用者の健康チェックを行っている。その際、日々の健康状態を報告し必要なアドバイスを受けている。緊急時には、併設特養看護師に応援要請し、簡単な処置等も行えるよう協力体制を築いている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には、面会や洗濯物を取りに行き、看護師や担当SWに利用者の状態を確認、退院前カンファレンス時には、家族の了解を得て同席、医療関係者との情報交換を行うなど関係づくりを大切にしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時において重要事項説明とともに重度化した場合の対応について方針を説明している。身体機能の低下により、医療的ニーズが高く、事業所での対応が困難な場合には、本人・家族等、主治医との話し合いを持っている。また、終末期に向けた住み替えがスムーズに移行できるよう看取りの可能な特養、医療関係者との連携も図っている。	重度化や終末期については、方針を明文化している。利用開始時に説明し、利用者や家族の合意を得ている。状況の変化に応じて、同敷地内にある特養への入所や病院への入院を職員や家族と何回も話し合い決めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の時の対応についてのマニュアルを作成、研修等で啓蒙を図っている。また、消防署の協力を得て救急救命等の講習を受講している。職場内研修では、看護師から指導を受け、応急手当や初期対応の知識・技術を習得している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養との防災体制を整備し、昼間及び夜間想定での避難訓練や消火器の操作訓練を定期的実施している。地区の避難訓練にも参加し協力体制を築いている。また、避難の方法や避難経路の確認なども定期的に行っている。非常食等（飲料水や食料品等）を備蓄し賞味期限など定期的に管理している。	マニュアルを作成し、年5回訓練を行っている。訓練の際は地域住民にも呼びかけ、昨年は住民の参加もあった。消防署と協力し夜間を想定した訓練も行っている。福祉避難所に指定されているため、非常用飲食物品の種類や品数は豊富であり、賞味期限などよく管理されている。布団や毛布などの備品も数多く備蓄されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊敬の念を持って接するようにしている。トイレ誘導や失禁時の声掛けは耳元で話かけながら誘導しプライバシーに配慮した対応を行っている。毎月のスタッフ会議では職員中心のケアや声掛けになっていないか確認しケアの振り返りをしている。	失禁されている時は他の用事を言ってトイレまで誘導したり、耳元で伝えたりしている。プライバシー保護についての研修は定期的に内部研修で行い、各職員に周知している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者本人が自己決定できるような声かけを行い、自分の思いや要望がうまく表出できない方には、2者選択などで声掛けし自分で選択できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、利用者それぞれの過ごしたい生活スタイルを重視している。リハビリ体操や散歩などを実施する際には、本人の意向を尊重した支援を行っている。居室で本を読む人、休んでいる人など自由に過ごされている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期には家族に協力を依頼、日々の着替えは本人の希望を聞きながら一緒に服を選んでいく。美容師による散髪日には髪型の希望を聞いたり、行きつけの美容院へ行くなど自分らしいおしゃれができるよう支援している。女性はマキアを塗ったり、化粧品と一緒に買いに行くなどの支援も行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に応じた「食事の配膳・食器の片付け」や新聞広告を見ては買物等に一緒に出かけ、食べたい物を尋ね献立に取りいれている。苑庭の畑の野菜と一緒に収穫、摘み取りして食材に活用している。昼食時には職員も一緒に食事しながら家族的な雰囲気が感じられるよう支援している。	利用者と職員と一緒に配膳や片づけをしたり、同じテーブルで食事をとっている。利用者の好みに合わせて、カレーとご飯を別々のお皿に分けて提供したり、ピーマンが嫌いな方には、ピーマンを取り除いたり一人ひとりの嗜好も大事にしている。菜園の野菜を利用者も収穫し、それを食材にしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取量をチェック、体重測定を定期的に行い栄養状態を観察している。食事については、一人ひとりの嚥下状態や咀嚼力を把握し、本人の嚥下状態に合わせた食事形態を工夫し提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に合わせた口腔ケアを実施、必要に応じて介助しながら口腔内の清潔を保つようしている。義歯については、週1回洗浄液にて消毒を行い管理している。異常時には訪問歯科医との連携を図っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの排泄パターンや排泄能力を把握し、その方に合った排泄支援を行っている。排泄の訴えない利用者については定期的なトイレ誘導を行い、自然排泄を促している。排便困難者に対しては主治医に相談、訪問看護師に坐薬の処置を依頼している。	身体をモソモソ動かすなど便意のサインを把握して、誘導している。尿意のない利用者には定時誘導をしている。失禁した場合は、「お風呂に行こう」などと誘い、利用者を傷つけないよう注意している。パットをしている利用者でも、職員の声かけで排泄ができてパットが汚れないようになってきている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の対策として、身体の運動や食物繊維を多く含む食事、乳製品や水分を多く摂るよう工夫している。個々に応じて腹部のマッサージ、ホットパックを施行。便秘傾向にある利用者については主治医へ相談し指示を仰いでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	浴槽は、個浴・リフト浴双方可能な設備を設置し本人の身体状況に応じて支援している。毎日の入浴を基本としているが、本人の意向を確認しながら入浴支援を行っている。入浴拒否がある際は無理強ひせず、日延べしたり脱衣場を温めて会話を楽しく誘うなど、利用者の気持ちに沿った対応をしている。	入浴は、毎日午前午後を問わず好きな時に入れるようにしている。ゆず湯や入浴剤を入れて、楽しく入浴できる工夫をしている。リフトを利用して車椅子の方も湯ぶねにつかる事ができる。体調に合わせて足浴にするなど、柔軟に対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調や生活リズムに合わせ、居室で休まれたり、短時間の昼寝するなど安心して休息できるような支援をしている。季節に応じて居室内の温度や湿度の調整、寝具などの調整を家族にも協力を依頼し安眠できるような室内環境づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は調剤薬局の薬剤師が管理している。薬情書等は個人記録にファイルし職員全員が閲覧し薬の内容を理解できるようにしている。不明なことがあれば薬剤師に相談している。処方に変更があった際には、受診報告書、日誌、送りノートにて周知徹底を図っている。また、病状等に変化があれば主治医へ報告し指示を仰いでいる。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中で、本人や家族から生活歴や趣味などを聞き取り、本人にあった役割や楽しみを見つけ生きがいがづくり繋げている。今年度より家族に協力を依頼し、毎月、千円のお小遣い使い、本人の買いたい物や食べたい物など外出や外食で支援、気分転換が図れるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は、園庭の散歩やドライブ、食材の買物に利用者と一緒に出かけている。桜や藤などの季節の花見も実施。また、近隣の公園へ遊びに行き、地域の子も達と楽しく触れ合う機会もあり地域社会のなかでの楽しい交流が生まれている。今年度より、本人の希望を聞き取り、家族との外食の機会を設けている。	気候の良い時は散歩を利用者の希望に応じて週に4回くらい行っている。買い物外出も月に1~2回行っている。お誕生日外食では、利用者の希望の所に行き、食事を楽しんでもらっている。パンが好きな利用者の方がパン食べ放題の外食を涙を流して喜ばれたこともある。お誕生日外食は家族にも参加をよびかけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年度より、お小遣いとして月千円を家族の方から頂き事業所の方で管理している。外出時は自分でお金を自由に使えるように支援している。買い物をする際には職員が付き添い見守りを行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも電話が使用できるようにしている。また、家族の了解を得て、本人からでも電話が掛けられるように支援している。自分でお手紙が書ける方には、書いた手紙を投函するなどの支援もしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・事務所・廊下等を一体的に繋がりをもたせ、広々とした空間にしている。季節ごとの利用者の作品や苑庭の花を飾り、観葉植物を配置、居心地の良い空間づくりをしている。食堂やリビングには、ご飯やみそ汁の香りが漂い、包丁の音が聞こえ、生活感あふれる環境となっている。室温はエアコン等で調整、居室やトイレに消臭剤なども設置、気持ち良く過ごせるように配慮している。	日よけがよしだったが、今年はレースカーテンに変え、全体的に明るくなっている。また、廊下の数カ所にイスを設置し、途中で休憩できるようにして、利用者から喜ばれている。お花等を飾り、季節感を出すように工夫している。利用者の家族から寄贈された絵画等を飾り、落ち着いた雰囲気になっている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内や廊下の一角にソファを設置し、利用者一人ひとりが気兼ねなく自由に過ごせる居場所、独りになれる空間を確保している。リビングの椅子も自分の好きな場所でゆっくり新聞を広げたり、気の合った利用者同士で話せるようソファの位置にも配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談し、使い慣れたタンスや飾り棚、椅子、仏壇など、馴染みの物やこだわりの物を自由に持込むことができるようにしており、その人らしく暮らせる居室環境づくりを支援している。	写真やタンス、仏壇など利用者のなじみのものが持ち込まれている。利用者の好みでキュービー人形が置かれた居室もあり、本人が居心地よく安心して過ごせるように配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差がなくバリアフリーで車椅子の方でも自由に移動が可能。トイレや階段、廊下には手すりを設け安全な移動を確保。身体機能を踏まえ、L字バーやポータブルトイレを設置している。特養との渡り廊下は、本人の行動を制限することなく歩いて行けるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない